

☆ 思考力・説明力を重視した「単元のめあて」を意識し、「授業のポイント」に留意することで、児童が主体的・対話的に学びを深めて、学力の向上が図られるようにしましょう。

(K・・・啓林館, G・・・学校図書, T・・・東京書籍)

学年	単元	単元のめあて と 授業のポイント
1 年	下巻⑬ くらべて みよう 関連単元 K 9 月⑪ 3 月⑫ T 7 月⑤ 10 月⑩ 2 月⑮	◎単元のめあて(例) ながさ・かさ・ひろさの くらべかたを かんがえて, はなそう。 ◎授業のポイント ・直接比較→間接比較→任意単位の順に必要感をもって比較する。 <直接比較→間接比較に進むには>直接比較ができてにくい場面を扱う。 (例)長さ→机(本)の縦と横の長さを, テープの長さで比べる。 - かさ→形がちがう容器のかさを, 同じ容器の高さで比べる。 - 広さ→児童用机と給食台を, 模造紙を利用して比べる。 <間接比較→任意単位に進むには> - 間接比較ができてにくい場面(間接比較で用いたテープ等を使わない)を扱う。 (例)長さ→机(本)の縦と横の長さを, 鉛筆の本数で比べる。 - かさ→形がちがう容器のかさを, 同じ形の容器の数で比べる。 - 広さ→違う場所にある掲示板の広さを, 掲示できる画用紙の枚数で比べる。
2 年	下巻⑬ 下巻⑭ 分数 関連単元 K 3 月⑬ T 2 月⑫	・11月号参照 ◎単元のめあて(例) ものを同じ大きさに分けたときの 大きさのあらわしかたを ^{かんが}えて, ^{めい}せつ明しよう。 ◎授業のポイント ・テープや色紙などの具体物を 2 等分・4 等分する等の操作を通して, 元の大きさの半分として元の $\frac{1}{2}$ の大きさ, 半分の半分として元の $\frac{1}{4}$ の大きさなどの分数の意味が実感できるようにする。
3 年	下巻⑭	・11月号参照
4 年	下巻⑮ 下巻 倍の計算 ボッチャ にトライ 関連単元 K 9 月⑧ T 9 月 倍の見方	◎単元のめあて(例) 一方の数が もう一方の数の何倍になるかを考えて, せつ明しよう。 ◎授業のポイント ・どの量をもとにして, どの量を比べるかを明確にする。(くらべるもの)÷(もとにするもの)で何倍かを求めたり, この関係を使って問題を解いたりすることができるようにする。 ・前の学習指導要領では, 「整数÷整数」で整数で割り切れない場合の扱いは, 割り進む技能のみであったが, 新学習指導要領では, 「6 は 4 を 1 としたときに 1.5 に当たる」とか「6 は 3 を 1 としたときに 2 に当たる」と捉え直して, 「整数÷整数」を実現していく。なお, この学習は 5 年の「×小数」や「÷小数」に発展する。 【小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説算数編 p. 190191A(4)ア(ア)参照】 【HP 算数教育 情報コーナー「倍の意味」の捉え直しによる 4 年「小数を用いた倍」から 5 年「×小数」・「÷小数」への指導 参照】

5 年	下巻⑭	・ 11 月号参照
6 年	⑫	・ 11 月号参照

<お知らせと お願い>

「算数教育ネットワーク岡山」で HP を検索して，毎月の「算数授業の めあてとポイント」や「算数教育 情報コーナー」等を ご覧いただき，日々の実践に役立てて下さい。

なお，これらについての ご意見ご質問および「算数教育ネットワーク岡山」の活動への参加希望は seiden_atmark_po.harenet.ne.jp まで Mail でお知らせ下さい。(atmark_を@に直して下さい。)